

# 甲田ゆり子の これまでの主な 取り組み実績

2011  
2015



## 子育て家庭を支援しています!



### 産前産後ケアの体制をつくりました

核家族化や地域のつながりの希薄化により、家庭・地域において妊産婦を支える力が弱まってきています。孤独な育児で育児疲れや産後うつも増えています。健全な子育てのためには母親の心身のケアが重要です。

甲田ゆり子は、区議会で「産前・産後ケア」について何度も訴えてきました。

いよいよ27年度中に、新たに産前・産後サポート事業が始まります。具体的には、宿泊型、デイケア型、ヘルパー派遣などを行的にします。

また、子育て支援メールを開始し、こんにちは赤ちゃん学級の拡充などを通して、妊娠から出産、子育てまで個々のニーズに即し、継続した切れ目のない支援を行い、子育てを応援していきます。



### 待機児童ゼロに挑戦中



保育園の待機児童解消に向けて、この3年間で620名の保育定数を増加させてきました。

また、認証保育園の差額補助も大幅に拡充させ、保育料が認可保育園並みで入園できるようになりました。

27年度は、子ども子育て支援制度により、さらに定員の増大(約400人を予定)を図るとともに、認可外保育施設の保護者補助(やむを得ず認可外保育施設を利用する保護者への補助)も行なうという画期的な施策が始まります。

### 小児救急医療施設の開院を推進

急病の子どもに対応する「小児初期救急」が中野総合病院で実施されてきました。

しかし、医師不足のため、現在は中野区医師会の協力で午後10時までの準夜間だけの対応となっています。

何とかして新しい小児救急病院をと考えてきました。江古田3丁目のUR住宅跡地に、小児救急医療や病児・病後児保育施設を備えた医療拠点を建設できないか、田中区長に要請をしてURに繰り返し働きかけてもらいました。

その結果、小児救急医療施設の誘致が決定しました。24時間体制での救急施設の早期実現を推進します(平成31年までに完成予定)。

ここでは、「病児・病後児保育」の施設も入ります。「病児」保育は中野区で初めてです。

## 災害に強いまち中野をつくるために!

### 初期消火に有効なスタンドパイプの配備を推進しました

狭い木造密集地域で、初期消火に役立つ機材「スタンドパイプ」を平成28年度までに区内110のすべての地域防災会(町会・自治会)に配備をすすめました。



区内小中学校など63の全避難所にも配備し、応急給水の機材としても使用されます。

スタンドパイプを使った防災訓練の推進もしています。



### 女性の視点できめ細かい災害対策を

女性の視点とは生活者の視点です。あらゆる生活の場面に役割を担っている女性が防災対策をつくる防災会議・地域防災連絡協議会の委員として入ることをすすめました。

その結果、避難所の運営、備蓄品のあり方等に女性・高齢者・子どもにとって大事な観点が加えられ、より安心な避難所等の対策を推進しました。

## 平和・文化を大切にす中野に!

### 「アール・ブリュットを中野から発信」を応援

アール・ブリュット(Art Brut)とは、専門的な美術教育を受けることなく、自由な発想で創作されたもので、「加工されていない」、「生(き)のままの芸術」という意味です。そのほとんどが知的などの障害をもつ方の作品が多く、ありのままの、魂からの創造性が光る作品は驚きと感動で観る人の心をつかみます。

現在、中野区にある障害者福祉団体「愛成会」が中心となり、この素晴らしい作品を世界に発信しています。

また、中野ブロードウェイ・サンモールなどの商店街で、定期的に「アール・ブリュット」作品が展示され、「まちじゅう美術館」として中野のまちに定着してきました。

甲田ゆり子は、中野がアール・ブリュット発信の地となっていくために、中野区内での



展示活動を応援し、常設展示ができるよう、区議会にも働きかけをしています(2012年と2013年に議会質問)。

今後、着実に周知が進み、2020年の東京オリンピックでは海外からお客様が訪れた際に、アール・ブリュット作品をお迎えをできるよう、さらに応援してまいります。

### 今年終戦70年「平和」への取り組み拡大を推進

2014年9月の一般質問で、平和事業の拡充について訴えました。その結果、今年は平和事業を例年よりも拡充して行ないます。

平和をこい願ひ、戦争に反対をした人たちが戦時中に治安維持法違反で捕えられていた歴史のある豊多摩刑務所の跡地が「平和の森公園」となり、区民の憩いとスポーツの場となっていることは素晴らしいことです。この場所に中野らしい「平和」の歩みをとどめ、発信をしていくべきと考え、今後とも平和事業の拡大を推進してまいります。